

知事との県民対話集会（阿南町）概要

- ・開催日時 令和5年10月12日（木） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 阿南町民会館 大ホール
- ・参加者 県民40名、勝野阿南町長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ 次世代につなぐ、健康に暮らせる安心・安全の町づくり

【参加者】

・私が暮らす地区の高齢者にとって、かかりつけ医は地区にある唯一の診療所である。地区の人たちは無意識のうちに地域の医療体制に不安を感じて暮らしているのではないかと思う。過疎化を食い止めるべく移住者の受け入れに努めているが、それには安心できる医療体制が不可欠だと思う。今はICTを活用した環境整備が進められていてオンライン診療があり、隣の売木村診療所では、既に看護師のサポートのもと、オンライン診療に取り組んでいると聞いている。しかし、それを担っている阿南病院の医師を確保し続けなければ、一人一人の医師の負担は大きくなり、医師の働き方改革も相まって、環境はあるのに実施できなくなるのではと危惧している。

・ICTなどの活用でどこにいても最新の医療情報を入手することができれば、医療格差を小さくすることができることをテレビ番組を見て知った。そういうことができれば、過疎地にも安心して医師が赴任してくれるのではないかと思う。医療環境の整備や医師の確保ができれば住民も安心し、県外から移住を考えている方にも安心して移住できることを伝えることができるのではないかと考える。

【知事】

・地域を持続可能にしていくために重要なのは、教育と医療だと思う。しかし、今までと同じ形を維持するのはかなり難しいと思っている。日本の人口減少が進む中で、あらゆる分野で人手不足であり、医療従事者も足りていないと言われている。

・まず私たちが取り組まなければいけないのは医師確保である。これまで以上に力を入れていかなければいけないと思っている。

・人口減少に伴い、医療サービスを受ける人たちも数が減っている。医療に従事する人が足りないということも問題であるが、今までと同じことをやっても入ってくる診療報酬が少なく、病院や医療機関の経営が成り立たなくなる可能性がある。両方から問題が出てきている。そういうことを考えると、一定程度、医療機関の役割をはっきりさせていくことが必要と思っている。

・地域ごとにしっかり考えていくことが必要であるが、こういったことは県民の皆さんの思いを聞きながら進めていかなければいけないと考えている。

【参加者】

・民生児童委員のなり手不足が全国的な問題である。長野県では昨年12月に改選があったが、新任の委員さんが約57%と全国で一番高かった。全国平均は30%くらいなのだが、長野県は新しいなり手が多い。できれば2期以上はやっていただき、地域の方々をつながりを持って、長くやっていただけるとありがたいと思っている。

【参加者】

・民生委員をしており、地区で49世帯を受け持っている。このうち高校生以下の子どもがいる世帯は3世帯しかいない。これからの未来の担い手が不足する不安がある。

・介護士不足も問題であり、募集をしてもなかなか集まらない状況。介護士が不足していると安心して介護保険を利用できない場合があるのではないかと危惧している。

・受け持ち地区も、10年、15年先には人口が半減してしまうと言われている。どの方も高齢になり、体の機能も低下するという状況において、将来的な不安や心配を抱えながら生活をしているのではないかと思う。

【知事】

・民生児童委員としてご尽力いただいていることに感謝申し上げます。民生児童委員と介護士の不足という2つの課題という点で、あらゆる分野で人手が足りないという実態がある。民生児童委員のなり手が少ないのはどういう理由からと考えられるか。

【参加者】

・訪問活動などを行わなくてはならず、責任もあるため、煩わしく思ってしまうということもあると思う。

【知事】

- ・民生児童委員については、ボランティア的にやっただけなので、負担である上に責任を感じる方が多いと思う。国も県も市町村も少しずつ関わる制度であり、誰が何を決めているのかがすぐには分からないので持ち帰って考えたいと思う。
- ・介護士の確保については、どうすればいいかという正解を私が持っているわけではないが、介護サービス全体の充実度合を見極め、弱いところにしっかり対応していかなければならない。
- ・長野県は現在、地域包括ケア体制を可視化しようと取り組んでいる。それぞれの市町村の弱いところは何かということがある程度分かるようになっていて、そこを改善する努力は県も市町村と一緒に取り組んでいきたいと思う。
- ・資格取得を前提とする介護などの従事者の処遇が相当低く扱われている。皆さんと共有したいことは介護士や保育士などの給料をもっと上げた方がよいと思っていることである。
- ・人材確保は県全体の共通課題でもあり、介護人材がいないと地域社会が成り立たないということはそのとおりであるため、問題意識を持って取り組んでいくが、皆さんにもぜひ一緒に考えていただけるとありがたい。

【参加者】

- ・商工会の会長を務めている。会員のうち後継者がいると答えた割合は18%で、約8割の会員が後継者はいないと回答している。
- ・高齢化による閉店のケースがある。商工会では、地域の商店へ伴走型支援に努めている。しかし、なかなか難しい問題であり、このままでは年間5、6件ずつお店が減っていくのではないかと心配している。お店が減っていくことで、買い物弱者をさらにつくり出してしまふ。県や町と一緒に商店を継承していく人を増やしていくことに取り組んでいかないと、商工会だけではなかなか厳しいと感じている。
- ・新しいお店をつくるにあたり、県の支援制度を使い、コンサルタントの先生に3回お越しいただいた。3回のみコンサルティングでは難しいという状況であるため、できればもう3回くらい増やし、実費は半額というような制度をつくっていただければと思う。
- ・また、商工会に対する県の補助金があるが、数年前に仕組みが変わり、会員数によって補助金の額が変わることになった。小さい商工会には多くの補助が出る仕組みにしていいただければと思う。

【参加者】

- ・地区には昔は多くの商店があったが、かなり数が減ってきてコミュニティを維持するのが難しい商店数になっている。商店が減っていくのは仕方がないことであるが、なんとか対応していくため、来年度、コンビニエンスストアを設置する計画を進めている。ある程度リソースを集約することによって、買い物弱者を救済できるような起点になればよいと思っている。
- ・周辺の町村の皆さんと話して初めてそれぞれの独自の取組状況が分かる。意外と隣の町の状況を知らないというのが現状である。買い物弱者対策は県全体の課題だと思っている。今は町で音頭を取ってくれているところではあるが、継続的に買い物弱者を救っていける仕組みにするために、県で旗振りの役割を担っていただく必要があるのではないかと考えている。

【知事】

- ・この間、県石油商業組合の皆さんと一緒に、ガソリンスタンドが少ない地域に関し、地域の取組を応援していくということや維持の方策について一緒に記者会見をしたところ。買い物弱者対策として、県としてどういった対応ができるのか、この取組と同じ視点で考えたいと思う。
- ・事業承継の話は、商工会連合会などに精力的に取り組んでもらっており、県も進めないといけないと思っている。一定程度の売上げや利益があれば、承継してもよいという人はそれなりにいるのではないかと。ただし、そのためには経営状況を明らかにする必要があるため、それに対して抵抗感がある人も多いと思う。後継ぎがおらず廃業も考えなければならないが、一定の売上げがあるから引き継ぐことができそうな商店などがどこかということは我々では分からない。そういったところは商工会などで掘り起こしていただいて、我々がいろいろな方面につないでいくなど、協力体制が組めると思う。
- ・商工会の補助金については、かねてから商工会連合会の皆さんとお話させていただいているところ。私としても今の仕組みがよいとは思っていない。今のままだと事業所数が減れば減るだけ補助金が減ってしまう。人口減少局面において、商工会の皆さんにとっては厳しい制度であると思う。安定的な制度になるよう、商工会連合会の皆さんとも協力しながら対応を考えていきたい。

【参加者】

- ・消防団の団長を務めている。火災のみならず自然災害に備えて防災に関するニーズが増えているなど、団員にかかる責任と負担が重くなっている。
- ・県の信州消防団応援事業に協力していただいている事業者側にも減税などの制度があれば、さらに多くの事業者の協力が得られると思うため、検討いただきたい。
- ・最大の悩みである消防団員数の減少への対応については、国レベルで検討会等が開催されており、県でも消防団充実強化支援事業で実施いただいているところであるが、今後の対応策など、県としての考えがあればお聞きしたい。

【知事】

- ・消防団活動は自治の基本であり、敬意を表したい。消防団員のいる事業所に対する応援減税は行っているためしっかり周知しないといけないと思う。
- ・地域における消防団活動の重要性や意味をもっと伝えていかなければいけないし、若い世代に向けてさらに発信をしていかなないといけないと考えている。学校教育としても地域のことを知ってもらうことと同時に、地域にはこのように公共的な役割を担っていただいている人が大勢いるということをもっと伝える必要があると思う。

【参加者】

- ・小学校でPTA会長を務めている。先生方は本当に一生懸命やってくれており、大変感謝している。聞くところによると、（先生の）なり手も少なくなっているとのことである。先程、介護士や保育士などの給料の話もあったが、ぜひ頑張っている先生方の給料も上げてほしいと思う。
- ・もう一点、私の祖父は戦争で亡くなっており、私は遺族会の青年部に入っている。数年前、知事に遺族会でアメリカの慰霊視察に参加させていただいたことの報告をさせていただいた。翌日遺族会長のところに知事からお礼のお電話をいただき、平和学習会でもこの話をしてほしいなどのお話をいただいた。まだコロナ禍で実現はしていないが、本当に嬉しく思った。知事の平和に対する考え方は素晴らしいと思うので、今後ともご指導いただきたい。

【知事】

- ・いま教育改革に取り組んでおり、大きな方向性としては学校の自治をさらに強化することと、学校の先生方がもっと主体的にのびのび活動してもらえるようにすることが重要であるとしている。
- ・学校を支えていただいているのは地域の皆さんであり、地域の皆さんには学校の先生が大変であるということを共有いただくと同時に、地域としての思いを学校にインプットしていただき、一緒によい学校にしていってもらえるとありがたい。
- ・また、遺族会の活動には敬意を表したい。だんだんと戦争の悲惨さや教訓を伝えてくれる方々が少なくなってしまう中で、県としても遺族会の皆さんにもご協力をいただきながら平和学習、平和教育を進めていきたい。引続きご協力をお願いしたい。